



鬼は外！福は内！

井上通信

No.13

お正月が過ぎ、はや2月3日には節分を迎えました。一般的には、立春の前日が節分とされるようです。節分は、邪気を払い、無病息災を願うために豆まきや恵方巻を食べる行事を行います。鬼(邪)を追い払い、福を内に入れる日本の古き良き文化です。

当社は2024年に創業140周年を迎える、いわゆる「老舗企業」です。現在の社会では、テクノロジーの発達が目覚ましく、加えて社会情勢も慌ただしく変化しています。このまさしく変化真つただ中にある時代で胡坐をかいていると変革の流れに取り残され兼ねません。一方で、今まで積み重ねてきた伝統には、先人の知恵が多分に含まれています。新しい知識を吸収しつつ、日本の伝統も取り入れることで、今後もより良いものづくりを続けます。

佐々木常務のひとこと

当社の営業を担当する社員へは、自戒を射込めて『報連相=Communication』を毎回お願い致して居りますが、会社・仕事だけでなく、家庭・夫婦・親子でも(思いやりと会話=意思疎通)が極めて重要と考えて居ります。勿論、内容も大切ですが、電話や顔を見合わせるの会話はたとえ他愛無いもので有っても、組織・社会の中では、最も根本的な【基本】と考えて居ります。思い込み、希望的観測より直接の確認がミス無くす近道とつくづく感じて居ります。



井上のお石灰な話

土佐石灰の歴史 編

美濃屋忠左衛門と太和屋三衛門は、奉行所へ石灰を用いた商売の許可を求める願いの書を提出した後に、掘削する許可を求めて土地の権利者への歎願やその土地の調査をしました。幾多の困難を乗り越え、1730年(享保5年)によりやく願いが聞き入れられ、土佐石灰の歴史が幕拓くこととなります。

当時、石灰石は割れやすいため建築物などの活用も出来ず、まさしく掘削作業中に出てくる厄介な屑石という位置付けでした。その屑石を使用して商売をするというのだから奇異な目で見られたことでしょう。けれども、村が持て余した「屑石」は、現在では優良な土佐石灰へとつながっているのですから未来はわからないものですね。

土佐の方言紹介
「かまえる」
【用意や準備する】の意。
「出かけるき、早うかまえちよき」「料理かまえたき、食べていきや」のように使用されます。家族や友人など親しい人に気軽に話す時によく使われます。標準語の「構える」という言葉とは意味が違います。このように意味が違う使い方をする土佐弁も多いのでわかりにくいですね。

ぼちぼちかまえようかねえ!



高知でのワイン造り4シーズン目が始まりました!2012年の葡萄栽培のスタートから早いもので12年が経ちました。その間いろいろな出来事がありました。2023年は、これまでの取組が開花いた年でもありました。日本ワインコンクールで「正光園シャルドネ2022」入賞、ワイナリーアワード三ツ星獲得、山北みかんワインが高知県産業賞を受賞するなど思いがけず嬉しい評価をいただきました。県民に末永く愛される地酒を目標に今年も栽培・醸造において出来る限りのことを真剣に楽しみたいと思います。2024ヴィンテージは心がウキウキしワクワクするワインを皆様にお届けできるよう皆で頑張ります!



井上ワイナリー だより